

## 令和7年度 第1回岐阜市住民自治推進審議会

- 1 日時：令和7年7月23日（水） 午後1時30分～3時10分
- 2 場所：市庁舎6階 6-3 会議室
- 3 出席委員：13名 石原委員、梅村委員、笠原委員、桐生委員、高木委員、  
玉腰委員、田村委員、中島委員、藤井委員、三浦委員（web）、  
森委員、安田（洋）委員、安田（直）委員
- 4 会議の公開の可否および傍聴者：公開 傍聴者なし
- 5 議題
  - (1) 会長・副会長の選任
  - (2) 岐阜市住民自治基本条例について
  - (3) 岐阜市協働のまちづくり推進計画の進捗状況について
  - (4) その他
- 6 配布資料

### <資料>

- 1 委員名簿
- 2 岐阜市住民自治基本条例パンフレット
- 3 岐阜市協働のまちづくり推進計画 2023-2027 事業計画  
【令和6年度事業実績及び令和7年度実施計画】
- 3-1 参考指標の推移
- 4 岐阜市協働のまちづくり推進計画 2023-2027（概要版）

### <参考資料>

- ① 岐阜市住民自治基本条例施行規則
- ② 岐阜市住民自治基本条例逐条解説
- ③ 岐阜市協働のまちづくり推進計画 2023-2027

### 【会議内容】

#### 1 議題

##### (1) 会長・副会長の選任

委員からの発言（会長：高木委員 副会長：桐生委員）

⇒承認

## (2) 岐阜市住民自治基本条例について

### 会長

それでは早速、議事を進めていきたいと思います。

議題2 岐阜市住民自治基本条例について、事務局から説明をお願いいたします。

### 事務局

岐阜市住民自治基本条例について説明 【資料2、参考資料①、②】

## (3) 岐阜市協働のまちづくり推進計画の進捗状況について

### 会長

引き続き、議題3 岐阜市協働のまちづくり推進計画の進捗状況について、事務局から、説明をお願いいたします。

### 事務局

岐阜市協働のまちづくり推進計画の進捗状況について【資料3、3-1~4】

### 会長

最後のところが、目標だけ言っていただいても、現状の数字と、どこを見たらいいのかわからないですね。

また後で、皆さん気になったところは、質問いただければと思います。ご意見ご質問のある方、お願いいたします。いかがでしょうか。

クラウドファンディング型のふるさと納税について、7団体中4団体がペットの話というのは、偏りすぎではないでしょうか。

NPOの団体が自主的にやっておられること自体は、否定はしませんが、市が、ふるさと納税という形でサポートをするのに、偏り過ぎではないかと思うのですが、いかがですか。

### 事務局

動物愛護が多いということは、認識はしております。

毎年、市の事業に、いかに生かしていただけるかというのを審査しております。そういったお声も踏まえ、視野に入れながら、やっていかねばならないと、思っております。

### 会長

ぜひご検討いただければと思います。

### 委員

自発的なまちづくり活動につながる意識の醸成について、まちづくりで一番地域が困っているのは、担い手の不足です。これをどのように、皆さまに参加してもらおうかということに、地域は非常に苦勞をしている。まちづくり活動に関わりたいと思っている市民の割合が40%以上の一方で、まちづくり活動に関わっている市民の割合が20%で半分ということです。このあたりの数字をもっと上げる方策を考えないといけないのではないのでしょうか。

実際に運営していくには、人の問題というのが大きな問題になるので、それぞれの地域の

状況をもう少し加味していかないと、20%程度の参加ではいけないと思います。事務局の見解をお聞きかせください。

#### **事務局**

色々な地域の方にお話を伺いますが、担い手不足で困っているというお話をよく伺います。そういったところを数字として上げていかないといけないという認識は持っております。

#### **会長**

ありがとうございます。

では、安田（洋）委員のまちづくり協議会では、様々な工夫をされているのではないかとと思いますが、何かアイデアがありましたら、ご教授いただければと思います。

#### **委員**

やはり、幼稚園、小学生、中学生、高校生、広く大学生まで、そういう若い人を巻き込んでいく必要があります。そういう人が参画しやすい仕組みを考えることによって、親や親戚がたくさん協力してもらえることもあります。私は、この20%以上というのは低いと思いますので、せめて40%同一にする等、目標としては、そういった形にしてもらいたいと思います。

#### **会長**

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

#### **委員**

何点か、お伺いをさせていただきたい点があります。

まず一点目、今の担い手不足の質問とも重複しますが、まちづくりサポートセンターは、地域の方々が抱えている課題意識について、伴走支援をしたり、コンサルティングのようなことで、サポートする機能・役割は果たされているのか。

また、新しい仕組みとして、地域支援職員の方が5人に増員されておりますが、運営で困っている部分を伴走し、より良い方向に繋げていくサポートというのがなされているのかどうかについて、教えてください。

#### **事務局**

まちづくりサポートセンターにつきましては、まちづくり協議会の取り組み状況等をご紹介させていただきながら、あるべき姿を挙げさせていただいているところが多いです。

地域支援職員につきましては、地域の困り事、担い手不足や、イベントに対しましても、効果的な取り組みをやっていく、持続可能な地域活動をすべく、地域により入って、取り組んでいきたいと考え、今回5人に増員させていただいたところであります。

例えば、補助金の実績報告書の作り方や、イベントの進め方、困りごとなど、地域によって、いろいろ進め方があると思っております。

ただ、いろいろな取り組み事例もあるかと思うので、地域支援職員が地域に入ることにより、様々な好事例の取り組みを他の地域でも行えるよう取り組みを紹介することにより、担い手不足を解消し、持続可能な取り組みができたらと考え、今取り組んでいるところでござ

います。

#### 委員

今キーワードとして持続可能という言葉が出てきましたが、持続可能性を高めるという観点からするならば、岐阜市内も様々な地域がある中で、歴史的使命を終えたような活動が慣習で続いている場合があります。

そのような場合、そもそも歴史的使命を終えた活動に対して、担い手がいないと言っても、空回る一方で、地域の状況は改善しません。持続可能性を高めるという観点から、そもそも当該活動は必要なのかという、ゼロベースの見直しを促すサポートの仕方というのは、あり得るのですか。そこが、ポイントだと思っています。

#### 事務局

ゼロベースで、「こういった取り組みが必要なのですか」、というようなお話をすることは、できていないのが現状です。

今の取り組みの中で、どういったことができるか、困りごとがあったというような部分でしか、今のところは、進めていくことができていない状況にあります。

#### 委員

持続可能性というのは、そのあたりに踏み込んだ伴走支援というのを今後検討される必要があるかと思います。

#### 会長

まちづくりビジョンを作るときに、既存の行事の棚卸等をやっていないのですか。

ビジョンを作るといのは、地域として何を目指していくかを決めて、そこに向かって何をやっていくのか、そういう形でビジョンを決めるはずですよ。

ただそういう中で、既存の取り組みとして、行事をやめていかないといけないというところ、棚卸、整理をするという点も含め、ビジョン作りをやっていないのではないかと、私は思っていました。そういった部分まで、踏み込めていないということですね。

ということでは、ビジョン作りのやり方や、中身を精査した方がいいと思います。

#### 事務局

地域になかなか入り込めていないというのが現状かと思っております。そういった視野を持ちながら、今後取り組んでいきたいと思っております。

#### 会長

やっていることをやめることが大変なことは、重々理解はしています。それでも、社会が変わっている一方、同じことをやり続けるというのは、なかなかできないものです。

#### 副会長

私がやってきた感想として、10年のビジョンを掲げ、3年目に入りました。岐阜市の皆様方のおかげでビジョンができたこと、感謝をしているところです。

スクラップアンドビルドができなかったという欠点もありますが、何をやりたいという点について、同じベクトルで、今の役員の方の理解も得られ、地域の皆様方も、理解をしてくれ

たと思っています。

多種多様化しておりますので、やめる選択肢がなかなか取れず困っているという状況があり、そういった部分は、情報共有をしながら、ぜひ教えていただきたい。今の役員は、やめることが、選択できない状況にあります。

続けて欲しいという声が少しでも上がると、何とか応えたいという思いがあるのです。まちづくりビジョンを3年目で見直すと考えておりますので、今年度の中に、もう一度精査したいと思います。

もう一点、市職員の社会貢献活動の促進について。

昨年もお話をさせてもらったのですが、市職員の自治会や町内会の加入率が78.4%、まちづくり活動参加率45.7%で、決して高くない数値となります。

本来であれば、地域のことは、まちづくり協議会や、自治会、自治会連合会がやっていかねばならないですが、これだけ市がやろうと言っているながら、市職員がこれほど少ないというのは、いかがでしょうか。目標で、まちづくり活動に参加している市職員の割合75%と比べると高い目標ですが、100%でもおかしくないと思っております。市職員の考え方をまず徹底していただきたい。

#### **事務局**

今、桐生委員のご発言に関しましては、私どもも全くその通りだと、思っております。

毎年、市職員を対象に、アンケート調査をさせていただいた結果を掲載させていただいておりますが、都度、自治会への加入、地域活動への参加、飛び出す公務員制度の設定等に、取り組んではいるものの、なかなかその結果に繋がっていないというのが現状であります。

職員による地域活動への参加に関しまして、協働のまちづくりを進める上で、まちづくりに参加する必要性、重要性を説いていきながら、呼びかけを引き続き、行って参りたいと思っております。

#### **会長**

こちらはずっと言われていることです。よろしく申し上げます。

#### **委員**

市職員の紹介回数が、6年度は0回です。市職員に、積極的に紹介していただき、市民の皆様を巻き込む必要があります。自治会加入数も含め、その点が大事になってくると思います。0回というのは正直、やめていただきたい。もっと市職員が市民を巻き込めるぐらい紹介をし、市民がまちづくり活動に参加していただける形の環境作りをしていただきたい。

#### **会長**

月2回の広報ぎふに、順番にまちづくり活動をしている市職員コーナーを作ったらどうでしょうか。そこまでやらないと無理なのでは。ご検討ください。

#### **委員**

市民協働推進リーダーについて、質問です。

事実関係として、令和7年度からのものか、これまでもやってきたものなのか、教えてい

ただきたいというのが、1点目です。

それに関連し、市民協働推進リーダーは、例えば給与担当等、要するに内勤・バックヤードの方も、市民協働推進リーダーとして、委嘱される可能性があるのかどうか、という点を教えていただきたい。

私、他市で市民協働の職員研修をやらせていただいておりますが、給与担当や、議会事務局職員、つまり、現場ではない職員にも研修を受けていただきます。あまり自分の仕事には関係ないという反応が返ってくるため、困惑しております。庁内の各部署ということで、なかなか対市民の方と向き合わないような職場の方も、市民協働推進リーダーになる可能性があるのかどうか、2点を教えていただいてもよろしいでしょうか。

### 事務局

市民協働推進リーダーに関しましては、各部において選出をしていただいております。

その目的といたしましては、各部内の業務において、地域との協働を業務の中で、先導して進めていくというような形で位置づけをしております。

委員ご指摘のように、議会事務局等、市民との接点が少ない部署含め、全部局から、1名ずつ選出し、毎年研修をしております。業務の中で、協働のまちづくりを進めるという視点で、業務にあたっていただくよう推進していく位置づけで、続けております。

これに関しましては、今年度からということではなく、今までも各部で設置をし、進めてきているものでございます。

### 委員

給与担当や、安全衛生担当等、あまり協働とは接点がない方に対しても、いかにこの重要性等を理解していただき、自分の仕事との関わりがあるのかという点を模索していただく仕掛けがないと、難しいと思います。工夫をしていただく必要があるのではないのでしょうか。

生涯学習等であれば、非常に市民と関連が高いとは思いますが、全庁的というと、そうでない可能性もあり、そこをどうしていくのかというのが、一つの課題であると思います。

### 委員

昨年度も、まちづくりのことでお話をさせていただいたのですが、地域支援職員を新たに専従職員とするということで、自治会連合会や、まちづくり協議会の報告書などの帳票作成を助けていただいている地域はたくさんあると思います。会計のやり方が市に沿ってという点が、とても難しいです。私も実際やっていて、やれる方がやっていらっしゃるところはよいのですが、慣れていらっしゃる方がやっているところは、地域支援職員を知っていただき、帳票そのものから、作っていただいていると思います。

しかしながら、お手伝いしていただけるのは本当にありがたいとは思いますが、それではまちづくりの機能として思うような働きはないと考えます。

昨年度も同じように、言わせていただきましたが、会計のやり方を我々のラインまで下げていただきたい。大変かと思いますが、やりやすい方法を考えていただきたいという点です。もう一点、先日、私が失念しており、書類の提出が期日を過ぎてしまいました。お知らせ

をいただけませんでした。

問い合わせをしたら、出ておりませんという回答を頂戴しました。締め切り時に、書類の提出の有無について、確認の電話等、もう少し気配りをしていただけると、大きな失敗にならないと思っております。話を伺ったところ、未提出のところに、これから連絡しますというお返事をいただきましたので、もう少しご配慮いただけるとありがたいと思います。

#### 会長

会計の対応の話は、前回もありましたね。

#### 事務局

会計の取り組みについては、地域の方で、会計の処理をやっていただき、地域支援職員がサポートをするという形となり、実際にやっていただくのは、地域の方になります。

本年度の取り組みとして、そういった点をできるように検討しております。少しずつではありますが、そういった方向へ向かっていきたいと思っております。

もう一つ、提出書類が出ていないところについては、こちらから投げかけが必要になるかと思えます。タイミング的に事前にご確認いただいたのが先だったというところもあるのかもしれないですが、そういったところは配慮しながら進めてまいりたいと思っております。

#### 会長

今の点について、DX 化なのでしょう。使いやすいシステムを作って、使っていただく。そしてシステムでチェックもしていく。システム全体で確認できるようになれば、見える化でき、使いやすくなるため、DX 化が方向性ではないでしょうか。

#### 委員

令和6年度の生涯学習長良川大学の講座数についてお伺いしたい。一般教養学部が1,060講座に対し、地域力創造学部、地域マネジメント学部という住民自治の目標達成に、特に重要と思われる講座がそれぞれ1講座となっており、人材不足等、特段理由があるのか、お伺いしたい。

#### 事務局

生涯学習長良川大学について、ご質問にお答えをさせていただきます。

まず、いわゆる生涯学習講座として、一般市民の方に開設しておるものが、4学部の中では、一般教養学部ということで示しております。

その中で、1,065講座を開催しておるわけですが、それ以外の地域力創造学部、市民講師養成学部および地域マネジメント学部につきましては、まちづくりサポートセンターとの共同開催で、地域力創造学部の講座を行っているということになります。その中で、年1回開催しているという形でございます。

また、市民講師養成講座につきましては、市民講師というのは、一般市民の方が講師となり講座を持たれる、そのために受けていただく講座です。3講座というのは3回でございしますが、市民講師の方に、人材育成のための3講座を受けていただくという形になっており、別に分けているものです。

また、地域マネジメント学部につきましても、次期リーダーの養成のために年間に1回という形で開催しております。同じ1,065講座の中でも、この3項目3学部につきましても、特化して行っているというご理解をいただきたい。それ以外の1,060講座については、手技的な講座や、大学に協力して実施いただいております講座等、純粋な生涯学習の講座ということでご理解いただければと思います。

## 会長

三浦委員からの意見もありましたが、地域の課題を解決するような、プロジェクト型の実践を伴った伴走支援の講座の形にできないのでしょうか。1講座とありますが、一年は、なかなかできないかもしれないですが、半年ほどの期間で、課題に取り組んでみる。地域から課題として取り組みたいことを出していただいて、取り組んでいくということを講師陣が伴走支援をしていくという形を取る。

10年ぐらい、岐阜県と岐阜大学で防災のリーダー講座の中で、減災未来塾というのを私はやっています。

1年に、5人か10人程度ですが、こんなことをしたいというテーマ及び事前計画を提出したうえで、スーパーバイザーをつけ、2人程度の地域課題を解決するというをサポートしつつ、途中研修も行います。そういう形のあることをやっていけば、実際に、地域の課題の解決及び人材育成にも繋がっていく。この後も、その方々は、県内で色々な方面で活躍されております。座学ではない講座の形を進めていくということをしないと、まちづくりの担い手にならない。

そういう講座の形は、できないのでしょうか。できると思います。

## 事務局

実際は私ども、男女共生・生涯学習推進課の方としては、正直現状では、力及ばずではございます。まちづくりサポートセンターと共同でやっているという部分もございますので、まちづくりサポートセンターとご相談させていただいて、検討を進めていきたいと考えております。よろしく願いいたします。

## 会長

まちづくりサポートセンターを支えている先生方は、できると思います。

## 委員

一市民として、岐阜市の住民自治基本条例の素晴らしい冊子・パンフレット、協働のまちづくり推進計画を初めて読ませていただき、素晴らしいという感想でございます。

ただ、今までは、このようなものがあるとは、存じ上げませんでした。

自治会の加入率は、非常に由々しき問題で、どんどん下がっております。市民が、岐阜市を信用していない、信頼関係がないと思います。

もっと広報活動を進め、岐阜市はこういったことを市民と一緒にやろうとしているのだと思ってもらえれば、自治会に参加し、自分も行動を起こすという動きになるのではないのでしょうか。

## 事務局

広く市民の皆さんが全て住民自治基本条例を認知されてみえるのかというと、自信を持って、100%認知しているとは、言い難いという部分はあります。

ただ今いただいたご指摘は真摯に受け止めて、これらの認知も含めて、周知に努めていきたいと思えます。

## 会長

認知率は、調べていますか。調べませんか。

## 事務局

先ほどの指標に関しましては、毎年、企画部が行っております、市民意識調査で数値を調査させていただいております。

調査項目にそういった項目を追加できるかどうか、一度確認をさせていただき、検討させていただきたいと思えます。

## 会長

学生の授業で、当該冊子は両方使っています。テキストとしても非常にいいと思っておりますので、当該冊子自体を皆さんに知っていただくというのは、非常に価値があることです。何か策を立てていただきたい。

## 委員

今回初めて参加させていただきますので、不見識もあるかもしれませんが、私の認識としましては、地域における課題が、多様化複雑化していく中で、政策の限界、財源の限界という点で、その共助をいかに公助していくか。

行政の制度は、どうあるべきかというところに、私自身も関心を持っている点であります。

細かい事の経緯・事象がわからないので、まだそういった質問は差し控えさせていただきますが、やはり担い手育成というのが一番の問題だと思えます。

今お話がありましたように、貴市は、パンフレット・冊子も作られていて、非常に力を入れておられます。一般論ではなく、担い手育成という観点において、今、行政の方で、最大の課題だと考えておられることをどう分析しておられるか、教えていただきたい、というのが1点です。

また、市職員の社会貢献活動の促進は、難しいだろうと考えます。と言いますのも、最近の公務員を目指す学生の気質からすると、特に若手は難しいだろうと推察をいたします。

ですが、これができていませんというお話は、頂戴しましたが、どういう理由で、なぜ、それがハードルになっているのか、なぜ参加率が低いと認識されているのかという点を、教えていただきたい。

最後は細かい点になりますけれども、市民活動団体の登録数が増えているという状況について。これは単純に、市民活動が活発になっているからという、そういうことではもちろんないと思えます。

ですが、なぜ増えているのかという点も含め、以上3点について、お願いいたします。

## 事務局

担い手育成をどこまで分析できているのかという点について、分析がなかなかできていない状況であります。様々な地域の取り組み、地域の行事に行きますが、先ほど、副会長がおっしゃられました、中学生等が参加されていると、私も皆さんにそのようにおっしゃっていただいております。そういう目で見ますと、中学生は結構参加されております。先日も夏祭りに行かせていただきましたけれど、スタッフとして参加されておりました。会長がこういう子たちを生かして、いかに、留まっただき、参加していただくかという点が重要だと思っている、とおっしゃっておりました。

答えにはなっておりませんが、そういった分析等も含めて、良い状況・取り組みを進めていきたいと思っております。

職員のことについて、アンケートを取っておりますが、なかなかその分析までは至っておりません。そういった視野も入れながら、今後取り組んでいきたいと思っております。

市民活動団体については、登録数が増えており、市民活動支援事業といたしまして、公開コンペもやらせていただいております。募集をしていただいている方が本当に多く、増えてきているのが現状です。何もないけれども、皆さんが集まって情報交換をしましょうという、そういった会にも、たくさんの方が集まるようになってきたというのが、印象でございます。そういった方たちとコミュニケーションを取りながら、分析をしていきたいと思っております。

## 会長

今学習指導要領で、総合的な探究の時間があり、その中で地域探究というのが、一つの分野としてあります。中学生のところまで、いわゆる地域と連携してやれておりますが、高校との連携が課題になっているのではないかと思います。

もちろん、県立高校が多いため、なかなか市でアプローチは難しい面もありますが、しかしながら、高校の中でも総合的な探求の時間というのがあるので、うまく連携をしていく道を模索できると良いと思います。

課題が多いとは思いますが、子供たちが助けられる側から助ける側になっていくというところに繋がっていくと思います。

## 委員

まちづくり協議会は、地域住民全員を対象とした、地域づくりの団体ということで、まちづくり協議会への参画、地域住民の参画というのは、大変重要なことだと思います。そこで、まちづくり協議会の会長さんにお伺いしたい。市民から参画してもらうことについて、ハードルを感じないのか。それとも、開いていれば、どんどん来ていただける状況なのか。また、サポートや、課題に感じることもあるのかどうかをお伺いしたい。

また、市としても、まちづくり協議会への参画の点で、サポートがあれば、お伺いしたい。

## 副会長

一般市民に対しては、回覧物や、場合によっては全戸配布し、ホームページを使って、参

加を促しています。

ボランティア会議については、市民会議の皆さんと情報共有をしながら、学校の担当者のところへ出向き、小学校はタブレットを使って、全校生徒にボランティアを促し、中学校は、ボランティア掲示板を作っただき、参加していただいております。

幸いなことに、鏡島地区は、市立の高校がございます。市立岐阜商業アントレプレナーシップということで、昨年、岐阜市と武蔵野大学が提携して、起業家精神を培っていこうという中で、地元の問題を抽出し、それを解決するということをやっていただきました。2年連続して、優勝の皆さん方が、まちづくり協議会の行事に参加をしてくださり、企画・運営までやっていただけるといことで、2年目に入りました。来年度以降も続いていこうと、期待するところであります。

ただ難しいのは、どのような方法で情報を流しても、見ない人は見ない。その方たちをどう引き込むか。

これは、先ほどご質問のある方と一緒に、市の方でどれだけホームページに載せたり、広報に流しても、見ない人は見ないと思います。

興味を引かせるために、我々がやっていることは、とにかく地道に皆さんにお伝えする、色々な機会でお話をする機会を持っていただいているところです。本日は、ほっこりサロンという、高齢者に集まっていただく場を行っているのですが、私の話をする時間をいただいて、今年度、こんなことやっています、皆さん参加してくださいといことを、話をさせていただきました。1人の方が、終わってからお話をしていただいて、個別の話ではあるのですが、お相撲さんの炎鵬関を鏡島地区で呼ぶことになっていたのですが、骨折をしてしまい、来られなくなりました。地域の皆様に、その方が広報をしてくださいました。

ただ、代わりの3段目の力士が来てくださるといことになりましたので、市岐商の相撲部と一緒に、相撲フェスティバルをやろうといことで今進めております。

私どもも、宣伝になりますが、7月28日13時半から、鏡島小学校の体育館で開催させて

## 委員

まちづくり協議会で、様々やっておりますけども、まず、けやきまつりを、やっております。けやきまつりは、学校の協力は不可欠であり、2年ぐらい前から小学校校長先生の判断で、日曜授業をやっていただき、途中から参加してもらっております。子供たちが、PTAのご協力を得て、こども券というのを発行していただき、各お店で、それぞれ買い物をするという体験ができるように工夫しております。

小学校の子供が、全員参加していただき、中学生は、ボランティア制度を大いに活用していただいて、ボランティアを行った人は、得点をつけていただき、内申書にも反映してほしいといことを言っています。そのように、学校も巻き込んで、お願いをする。

また、校区内に、岐阜高校がございます。岐阜高校からは、自治会に、朝晩の交通安全に協力してもらえないかといご要請がありました。その代わり、様々なイベントに、高校生を出して欲しいといお願いをしております。

私ども、交通安全に協力をしましたので、ぜひ高校生に参加していただければと、そういった仕組みを作っていきたいと思います。

また、市職員にも、ご協力をいただいております、感謝しています。市の職員の方は、もっと地域活動に参加していることをどんどんPRしていただきたい。先ほど話に出ましたが、広報に出すぐらい、具体的にこういったことをやっているということをPRしてほしい。

表裏一体となってやっているということ、言われっぱなしではなく、自分たちがこれだけやっているのだということは、わかってもらわないと、なかなか難しいと思います。ただ、市職員はなかなか難しく考えるので、単純明快に。体力を提供するというぐらいのつもりでお願いしたい。今年は、11月30日です。どうぞよろしくお願いいたします。

### 事務局

ありがとうございます。応援のコメントとして、受け止めさせていただきたいと思います。

まちづくり協議会に関しましては、今回、ご参加いただいている鏡島の桐生会長も、安田会長も、本当に地域の子供たちと連携して、事業を展開されておられます。

他の地域におかれましても、夏祭りのイベントであったり、そういったところに、小学校・中学校スタッフとして参加し、一緒に開催しておられるというところが、今増えつつあると、感じております。

ただ、現在、市の取り組みとして、まちづくり協議会の中に入って、一緒にやっているかと申しますと、そこまでは、まだ行われてないのが、実態でございます。

まちづくり協議会に関しまして、各地区多種多様な体制で進められてみえます。

地区に応じて、こういった形で、子供がご一緒させていただくことを確保できるのかという点も含めまして、地域支援職員が、より地域に入らせていただいて、地域の状況、課題を、一緒にお手伝いをさせていただきながら、考えていきたいと思っております。

現段階で、今年5名に増員をさせていただきましたけれども、まず、地域支援職員が担当の地域がこういった地域なのか、そういったものをしっかりと認識した中で、地域にお話をしに行くべきであるというところで、今基礎研修をさせていただいておりますので、今後、もう一步、前に進めた形でサポートをしていければと思っております。

### 委員

まちづくりを活性化させるというのは、やはり若い層を取り込むことが大事です。どう取り組むのかというのが課題と思っております。

私どもの地域としては、小学校までで、中学校・高校がない地域なので、地域としての取り組みとしましては、中学生に、ボランティアを募集という活動をさせてもらっています。

先ほどご発言があったように、高校や大学。

こういった若い層を取り込んでいかないと盛り上がらない、活性化しないのではないかと思います。岐阜市の青少年市民会議は、そういった地域を持たれた方でも、ボランティア活動を広げ、岐阜市青少年審議会では、ボランティアの登録制度にて、活動の案内をするということ去年から始めました。具体的には、今年は、もっと盛り上がるのではないかと

と、思っています。ぜひこういった形で、地域をまたいだボランティアの登録制度に取り組んでおりますので、ぜひ皆さん方には、承知おきいただきたいと思えます。

あと、市職員に派遣していただいておりますが、最初の目的は、事務、帳票作成という話がありますが、これが本来の目的ではないと、私は思っております。今までは、そういったものにつきましては、地域の中で何とかやってきました。そういった思いがありますので、経験値を積みながら、横の展開で、フィードバックしながら、いいところ取りをし、同じレベルで進んでいく。地域支援職員の皆様には、どんどん入ってきていただけたらありがたい。2番の指標が全体的に下がっています。これはこのままで良いのか、いかに上げ、いかに維持させる形で、方策を取っていくか。もう少し具体的にやった方がよいという印象を受けました。

<閉会>